

# 観 音 日

平成7年8月  
第23号

発集発行

広島県安芸郡府中町  
茂陰2丁目2-8-10  
真言宗 正観寺  
小出真行



高野山参拝記念

心暗きときは、即ち遇<sup>あ</sup>う所悉く禍なり。

眼明<sup>まなこ</sup>かなるときは、

則ち途<sup>みち</sup>に触れて皆宝なり。

法霊集より

右仏 左衆生と拜む手のうちぞ

ゆかしき南無のひと声

私達は、拜む心をもって、仏に向かう時には、自然に誰れしもがなす態度は、両手を合せること。すなわち合掌する姿<sup>すがた</sup>態です。

右の手はいつも仏や、仏の悟りの世界を象徴し（小指から、天、緑堂、声聞、菩薩、如来）左の手は凡夫や衆生の迷一の世界（小指から、地獄、餓魂、畜生、修羅、人）を表わしています。したがって、左右の両手を合わすことは、悟った仏と、まだ悟っていない私達凡夫とが一致することを示しています。ですから一口にいえば、合掌することは仏と凡夫とが一体となり、悟らないものが、悟ったものの悟りの境地に導き込まれんことを希望し念願することを表わしているのです。

# 本四国(後期) 順拝の記 前号のつづき

川岡敏行

## 一・概要

### イ・期間

平成7年5月25日(木)より5月30日(火)まで5泊6日間

### ロ・札所

56番泰山寺より88番大密寺までの33ヶ寺と総本山高野山金剛峯寺、番外椿堂と西国33観音2番紀三井寺

※観音No.22(平成7年3月)P.3  
下段に「57番栄福寺より」とあるのは56番泰山寺の間違い。

### ハ・一行

16名(男8、女8)  
小出真行、田村達雄、木村弘、末広一、佐々木次三、松浦輝彦、竹田学(初参加)、川岡敏行、尾尻房枝、吉高英枝、仁後孝子、石原幸子、中西ヨシエ、平塩三枝子、佐々木ひろ子、川岡智寿子

※住所、年令、敬称など省略、順不同。

※前期参加者中、山本綾子(平成7年3月16日歿。73才)、山本隆章、山崎清不参加。よって、今回の順拝は、故人の供養などの祈願を込めて。

## 二、企画

〒799-15 愛媛県今治市上徳乙216番地4 いずみ観光(株)  
運転者 西原秀喜  
添乗員 室津昭二

## ホ、経費

一人 一〇四、〇〇〇円

## 二・詳細

第1日 5月25日(木)曇後雨

予定のコース(山陽自動車道経由)を急に変更(国道2号線経由)され、6時広島バス鹿籠停、田村、川岡夫妻。それ以前に、小出、木村、松浦、竹田、仁後、石原、中西、平塩、佐々木(ひ)の9人同乗。10分JR海田車庫前、佐々木次、尾尻、吉高の3人。安全など祈願のため、般若心経ノ巻誦唱。

7時50分竹原港。末広(兄)の労作による冷甘夏柑のお接待。(以後お接待は再々あったが、省略して一括感謝)。8時10分出航、フェリー伊予。9時20分波方港、室津添乗員。全員揃う。40分56番泰山寺(地藏菩薩)今治市小泉、打初め。延命地藏十大願の第一「女人泰産」から寺名をとられた由。10時57番府頭山栄福寺(阿弥陀如来)越智郡玉川町八幡。沿道の黄金色の麦の穂は、すでに刈られたあと。45分58番作礼山仙遊寺(観音菩薩)同町別所甲。作礼山(約300m)の山頂にあり、境内よりの瀬戸内海の展望絶佳。まこと、仙人の空に遊ぶような気持ちになる。11時59番銚山国分寺(薬師如来)今治市国分。仙遊寺から11kmという。艶や

かな柿若葉などにとり囲まれた札所。12時入勝亭で昼食。宮島口の「一茶」に似た、四季折々の景色を楽しめる、みごとな植込みのある、和洋折衷のレストラン。6回の昼食会場で最高。トイレは超一流、バックミュージックのピアノ曲も珍しい。¥1780。植込みの先は、目下田植えの真最中なのに、順拝のできるしあわせを思う。13時61番梅檀山香園寺(大日如来)周桑郡小松町南川甲。納札入箱も写経入箱もそれぞれ5箱ずつもある。海外の寄附が多いらしい。14時30分60番石鎚山横峰寺(大日如来)同町石



H. 5. 25. (木) 14:30~  
60番横峰寺(石鎚山)  
本尊 大日如来  
住職 龜山性海(周桑郡小松町石鎚2253)

太子堂より、シャクナゲの花が少しおれて雨にぬれている本堂では、右下の庫裡納経所。後期では第一の難路。

鎚。バスをおり、雨中、本堂までの歩行はかなりきつい。おそらく、後期第一の難路だろう。足や目の悪い人、弱い人は、個人でタクシーを利用されてもよいと思う。やつと到着した太子堂から本堂へかけての左斜面のシャクナゲも、1/3はしおれて、雨にぬれていた。15時62番天養山宝寿寺(十一面

観音) 同町。大子堂再建中のため、大子は本堂に仮安置中。10分63番蜜教山吉祥寺(毘沙聞天) 西条市氷見乙。長曾我部元親が、イスパニア船長から託されたマリア観音像が寺宝として残る。16時64番石鉄山前神寺(阿弥陀如来) 西条市州之内甲。ご詠歌に「前は神 後ろは仏 極楽の よろずの罪を くだく石づち」とある。石鉄権現の別当寺で、東の遙拝所でもある。17時15分東予国民休暇村ひうちなだ荘泊(東予市河原津600円)。この宿は、廊下が今治市と東予市の境界線になっている。食事は今治市、入浴は東予市ですといたったぐあい。小高い所にあり、眺望はよいが玄関まで石段をのぼらねばならぬのが難。

第2日5月26日(金) 曇後晴

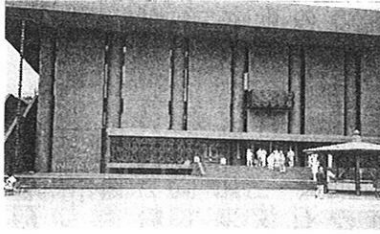
5時朝風呂。地理的には、高縄半島の東側にあるので、日の出が拝まれるはずだが、あいにくの曇り空で、期待するほどでもなかった。しかし、燦灘の海岸は美しい。7時朝食。46分出発。沿道には広い田圃が展開され、アスパラガスなどのハウス栽培がさかんである。麦秋、牛小屋が点在する。また、ブドウ、梅などの果樹も多い。8時10分松山自動車道35分入野P・Aで休憩。9時タクシーに乗りかえ、15分65番由霊山三角寺(十一面観音) 川之江市金田町三角寺甲。護摩壇は四角形が多いが、三角形の三角寺(小出住職説明)。45分番外椿堂

(延命地藏) 同市川滝町。三角寺から次の雲辺寺への途中にあるので、通夜堂もある。11時スイス製100人乗りのゴンドラ(昭和62年3月オープン)に。眼下に、小出住職や種田山頭火らの歩かれた山道が、蛇行している。28分66番巨龜山雲辺寺(千手観音) 徳島県三好郡池田町白地。ただし、海拔1000mの展望台は徳島、香川、愛媛3県の境界という。前回、大子堂は再建中であつたが、今回は修復成り、本堂を威圧するような、壮大な構えであつた。12時10分小松尾山大興寺(薬師如来) 香川県三雲郡山本町辻小松尾。楠や樅などの老樹が多い。12時30分梧桐庵(観音寺境内の茶店)で昼食。トイレはどこにあつたかしら。13時68番琴弾山神恵院(八幡宮、阿弥陀如来) 観音寺市八幡町。明治の神仏分離の名残り。次の札所は石段をおりた同じ境内にある。20分69番七宝山観音寺(聖観音) 同前。広い境内の伽藍配置は、奈良興福寺にならつていてという。観音寺市は、地元(観音寺中央高校)が、今春、選抜高校野球選手権大会に初出場、初優勝の快挙をはたした。54分70番七宝山本山寺(馬頭観音) 三豊郡豊中町本山甲。境内に、楠の大木と、五重の塔のあるのが印象深い。14時35分タクシーに乗りかえて、71番剣五山弥谷寺(千手観音) 三豊郡三野町大見乙。高さ382mの弥谷山の中腹(200m)にあり、昔から「死霊のゆく山」

と信じられている。けわしい山道(262段、108段の石段があり)をまわり、途中、墓谷とよばれる岩壁がある。前回、大師堂入口に奉納されたいたが、感謝の奉納品(ギブス・松葉杖など)、今回はない。15時10分我拝師山曼陀羅寺(大日如来) 普通寺市吉原町。境内に、高さ4m、東西17m、南北18mの美しい「不老松」があるのを憶えておけばよい。前回の宿泊所「坂口屋」は近い。30分73番我拝師山出釈迦寺(釈迦如来) 同町。前方に我拝師山(481m)がある。スズメのオヤドのような感じの札所。タバコ畑の甲山の裏に16時74番医王山甲山寺(薬師如来) 同市弘田町。弘法大師が幼い頃、土の仏像や草木の小堂をつくつたり、石を重ねて塔にしたり、愛犬をつれて歩かれたりしたといわれる所。25分75番五岳山普通寺(誕生院薬師如来) 同市普通寺町。わた



H. 7. 5. 26 (金)  
16:40~  
普通寺 堂前での最初の記念撮影  
(撮影室津昭二) 16名  
川岡 平塩 田村 香川  
小出 松浦 中西  
仁後 末広 石原 吉高  
木村 佐々木 尾尻 川岡  
佐々木次三



H.7.5.25(木)

61番栴檀山

香園寺本堂

本尊 大日如来

住職 山岡弘瑞

(周桑郡小松町南川甲19)

350人収容の天宿坊もさること乍ら納札入箱も5箱。海外の寄付も多いらしい。

したちは、東側の赤門から入った。他に、西に中門、南に大門があり、それぞれの門から入られる。寺名は、大師の父佐伯善通からとられたもの。17時本堂前で最初の記念撮影(室津写す)。30分琴平グラントホテル到着。金毘羅歌舞伎の終ったあとだが、番頭さん、仲居さん出迎えご挨拶。何ヶ月も前から予約の苦勞をされたという、立派なホテル。調度品、装飾はすばらしく、夕食の料理も、食べきれないほどのご馳走。しかし、ふつと考えたのは、先の66番雲辺寺を遽しくのぼりくだりした山頭火の「四国へんろ記」(昭和14年11月5日室戸佐喜莊)に出てくる献立一夜、煮魚、野菜、漬菜。朝、味噌汁、漬菜。昼、漬菜。あのよな豪華な料理が、遍路に必要かどうか。また荷物を運んでくれるのは楽でよいが、短い距離なら歩けばよいのに、車に乗って、渋滞、狭い道を宿までというのどうかと。

## 『おわり』

仏教では「これで終わりだ」というときに、「竟り」という字を使います。どうして「終わり」のことを「竟り」と書くのかと申しますと、経文に、

弟子某甲 盡末來際

帰依仏竟 帰依法竟 帰依僧竟

とあるからです。その意味は

『ここに、私の弟子となった私は、いつまでも、私の師である仏さまに従いつくします。そして、仏さまの教えをきわめつくします。そして、仏さまの教えを守るお坊さんたちを尊敬しくします』

ということです。竟りといいますが「きわめつくして、とどのつまり」という意味なのです。

「竟」という字に土へんがつきますと、あなたの土地のとどのつまりと隣のお宅のとどのつまりが接した所「境」という字になります。

では、仏さまや、仏さまの教えをきわめつくすということとは、どんなことでしょうか? それは、仏さまや、仏さまの教えを「とことん信じきる」ということです。「この世には、神や仏もあるものか!」といって、神や仏と信じようとしない人がいますが、その人は「もののいのち」を信じていない可哀想な人

です。

この宇宙にある、地球も太陽も、人間も、犬も猫も虫も、みんな「いのち」を持っています。この宇宙の「いのち」のことを私たちは、神や仏というのです。そして、「いのち」が生きている不思議な法則のことを「仏の教え」または「物の道理」というのです。

「宇宙のいのち」そのものが、神さまや仏さまであり「宇宙の法則」が「仏さまや神さまの教」えなのです。

つまり、仏教というものは「宇宙の教」のことなのです。その仏教を学ぶことは世の中を学ぶことなのです。このお経の文句にあるような、仏と仏法とお坊さまに従いつくしますということは、仏教を学ぶことです。「学ぶ」ということは、「真似ふ」ことです。だから、仏教を学ぶことは、「仏さまの真似をする」ということです。どうですか。あなたも仏さまの真似をしてみませんか!。

## 『墓地有り』

現在、正観寺本堂前を整備しておりますが、この整備を終わりますと新たな墓地が出来る予定です。尚、本堂横の墓地はまだ残っています。

本堂 横

一区画 三、〇六㎡  
百万円